



念仏踊り

連谷の「念仏踊り」は、室町時代頃に発祥したと云われる市の無形民俗文化財の盆踊りであり現在、身平橋組の「西組共進連」と方瀬・真菰組の「方真連」の二つが盆踊り(念仏踊り)として行われており、その年の初盆の新仏を偲び霊前に念仏をあげ、懇ろに供養する盆の行事として受け継がれている。念仏踊りの行程を簡略に記すと、まず、入り庭は高張りを先頭に中老衆の持つ「弓張り」そして、若い衆の笛、太鼓、鉦を奏でながら道行で始まり、輪つくり、はねこみ、念仏、とり唄、手踊りと続く。延々と続く手踊りも頃合いをみて数え唄で鉦が入り、中老衆の念仏、とり唄、若い衆のはねこみ、輪つくり、道行で引き庭となる。

最大の見せ場である「はねこみ」は「提げ太鼓」と別称されているように、下駄履きにそろいの浴衣姿の若い衆が笛の拍子、鉦の音に合わせ片手に太鼓を掲げ、片手にバチで太鼓の皮と縁を交互に打ち鳴らす演技は勇壮で感動的である。この様は

笛、太鼓、鉦の音が夕暮れから夜中にかけて山間の谷に響き渡り、幽玄に木霊する。

「念仏」は本尊様(お寺)、新仏に捧げるため、南無阿弥陀仏を四回唱える「四遍念仏」を厳かに唱える。

「引き庭」は、高張りを先頭に中老衆、若い衆と列を整えて初盆宅の親戚縁者が見守る中、庭から肅々と引くその様は譬えようがないほど、寂しさが込み上げる。



第七回あぐりスクール全国サミット in JA 東愛知
子どもが元氣！ JA が元氣！
地域が元氣！

JA 食農教育の重要性が叫ばれるなか、子どもたちを対象にした「あぐりスクール」(年間継続型の農業体験学校)を開講するJAは、年々増え続けている。そこで、実際に取り組んでいるJA、関心のあるJAが一堂に会し、愛知県・JA愛知東の実践事例に学ぶとともに、参加JAの交流と相互研鑽を深める場として開催される。

日時：八月十九日・二十日

・対象者：JA及びJA中央会役員、JA青年、女性組織リーダー、学校教育関係者

・参加者 二百五十名

・主な内容及び会場：八月十九日
○基調講演：河合勝正(JA愛知東組
合長)○実践報告：村田直人(JA愛知
東)○全体会議「新城文化会館」

○交流会「JA愛知東本店 ほか」
八月二十日 JA愛知東「こども農
学校」四谷の千枚田視察研修

視察研修は保存会長の歓迎挨拶、
高橋庄一先生(保存会顧問)の指導
する実習田の案内等が行われる。

主催 あぐりスクール全国サミッ
ト実行委員会 共催 JA愛知中
央会 事務局 家の光協会

本年度のJA愛知東こども農学
校は六十六名の生徒が食農につい
て学んでいる。

納涼盆踊り

八月四日、恒例の納涼盆踊り大会が連谷小学校校庭で開かれた。

当日は地区役員が午後から設営開催準備を行い、フランクフルト、焼肉、五平餅などの販売、また、金魚すくい、花火など楽しみいっぱい企画に参加者も満足げであった。なんとと言っても、ここ、連谷地区の盆踊りは音頭取りが地唄で(ぼたもち音頭)唄い、踊り手が返す。昔風情の盆踊りが魅力である。



主催：連谷公民館 連谷コミュニティ

視察

○八月九日、弥富市六箇環境保全会(水土里ネット)一行七十六名(大人

三十三名、子供四十三名他はバス三台を連ね、豊田市下山地区のビオトープ観察。生き物調査と説明。昆虫の森(昆虫採集と散策)を終え、四谷の千枚田を訪れた。

この棚田は湧き水、天日干し、生き物と共生した体にやさしい米づくりを目指している。などの説明に田んぼにカエルやタニシの多さを実際に見て納得の表情であった。



○八月二十五日、豊田市「筑羽自治区」つくば元気クラブ一行四十名が中山間における諸問題を抱え、訪れる。

稲刈り

○九月八日、「豊橋調理製菓専門学校」の稲刈り

当日は、稲刈り、生育調査、生物

調査、地域料理「五平餅」づくり。梅加工品の試食評価などの実習

○九月十一日、「棚田の楽耕」の稲刈り、自然散策。

○九月二十五日、JA愛知東こども農学校の稲刈り

○九月二十八日、連谷小学校の稲刈り

四年間続いたアストラゼネカ社の奉仕活動は中止となりました。

ホウライジユリ(ヤマユリ)

地域の花として親しまれているホウライジユリも最近はいのししの被害で減少している。



けなげな斬

連谷小学校の子供達は千枚田にもう一度「ホウライジユリ」を咲かそうと春に球根を植えた。今年はその中で一株一輪が咲いた。来年はきつとたくさんのお花が咲くことと思います。

ほい、ばかに、ホウライジユリが少なくなつたじゃんかん。ふんどのん、こころへんに沢山咲くむんで「ホウライジユリ」ちゆううだそうだが、このごろああイノシシが掘りにくりやあがつてえらい減つちやたのん。イノシシは利口だもんで、花が咲いた時分に一回見に来てやああ、花が散つて根っこ(球根)が大きくなつてから掘にくるだぞん。俺んとうは「とろい」もんで、「はいすがり」でも「山芋」でも見つけりやあ、いくら小さくても取つてきちやうがのん。これからああ、イノシシを見習わにやあ、あかんのん。サルもやああ 明日はジャガイモを掘らあとと思つとつたら先に掘られちやつたりなんかしてのん。作つたつて、どうせ掘られちやうむんで、まあ作つたつてあわんちゆうう言いながら、また作るだぞん。ふんにとろくさいむんだのん。

行 平成二十三年八月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二